

3. 織物の紫外線透過は透過光が入射光方向に最高値を示すもの、入射光方向の最高値のほかに、さらに一つの最高値を示すもの、および方向性のないものに分類することができ、この透過光に方向性のないものは前者よりも散乱などの影響が大であると考えられ、織物の紫外線透過性には散乱や反射を考慮する必要があることがわかった。

12. 被服地の紫外線透過について (第2報)

織物の紫外線透過の散乱性

梶山女学園大 梶山 藤子
早川 慶子
松久 貞子

1. 前報においては、まず織物の紫外線透過測定法の検討を行ない、さらに織物の紫外線透過性について一部を報告した。織物の紫外線透過は散乱、反射、回折、吸収などの光学的現象に支配されることが多いものと考え、今回は紫外線透過と反射との関係、紫外線透過の散乱性を調べ、被服地の紫外線透過の状態を追求する。

2. 光源にヘレウス型石英水銀燈を用い、紫外部用光電管 PMV-50Y によって試料による透過光を各方向について測定した。また試料による正反射方向の反射光と入射光方向に向う透過光とを比較測定した。